

要約

漁獲物への異臭の着臭被害を引き起こす藍藻類の高精度なモニタリング技術を確立しました。

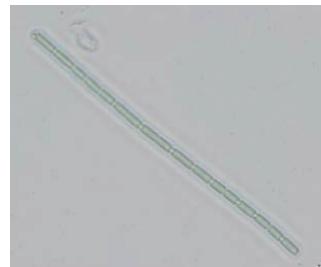
研究成果の概要

1 背景・目的

小川原湖では様々な糸状藍藻類が存在し、その一部が異臭（2-MIB※）を产生しますが、従来の顕微鏡観察では異臭產生藍藻類を区別してモニタリングすることは不可能でした。

そこで、異臭產生藍藻類に特化してモニタリングする手法の確立に取り組みました。

※異臭の原因物質、2-メチルイソボルネオール



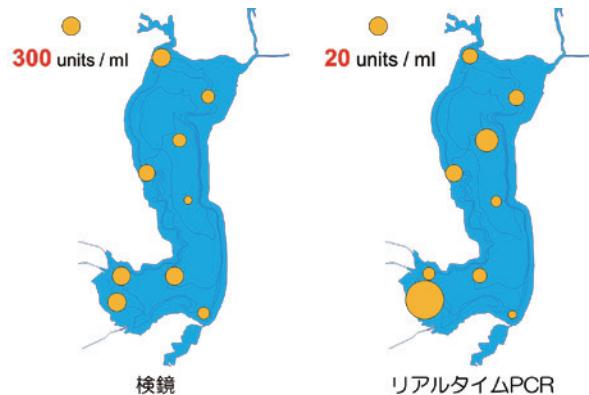
異臭產生糸状藍藻
(シュードアナベナ属)

2 内容

- リアルタイムPCR法により、遺伝子量から湖水に含まれる異臭產生糸状藍藻の糸状体密度 (units/ml) を計算する技術を確立しました。
- 当手法によるモニタリング体制を構築しました。

3 活用等

関係者への信頼性の高いモニタリング情報の提供が可能になったことで、的確で無駄のない事前対策につながることが期待されます。



検鏡(シュードアナベナ属)とリアルタイムPCR(異臭產生シュードアナベナ属)による定量値

関連情報

- 令和元年度から本手法によるモニタリングを開始しました。
- 当手法を利用して発生予測、発生対策につながる研究を進めています。